

## 「コリント教会へのパウロの手紙」のポイント

## 1 コリント教会への手紙のアウトライン

## A：教会の問題についての対処

- (1)教会の分裂について(1章10節～4章21節)
- (2)教会の無秩序な状態について(5章1節～6章20節)

## B：教会の質問に答える

- (1)クリスチャンの結婚に関する教え(7章1節～40節)
- (2)クリスチャンの自由に関する教え(8章1節～10章33節)
- (3)礼拝に関する教え(11章1節～14章40節)
- (4)復活に関する教え(15章1節～16章24節)



## 「コリント教会へのパウロの手紙」を読んでみよう

## 1 今日の聖書箇所：7章10節～24節

## 2 今日のポイント：結婚と離婚について

## (1)前回までの復習

パウロは7章で、クリスチャンの個人的な生活、特に「結婚生活」について言及しました。当時、コリント教会のクリスチャンは、街では売春が合法化され、クリスチャンの中にもそのような誘惑にどっぷりと浸かり、罪を重ねていた人々がいました。パウロは、そのように性的に自由奔放な生活を送るくらいならば、きちんと結婚生活をし、お互いの性的な責務を果たし罪を重ねない生活を送るようにと語りました。また、パウロは生涯独身を貫き、主の働きをした事から、独身で創造主に仕える事の素晴らしさを語りました。ただし、自分の性的な情欲を制御できる賜物を与えられた人のみ可能だという条件も述べました。

## (2)離婚に関して

7章前半でパウロは結婚生活や独身について語った後、クリスチャン同士の夫婦の離婚について語りました。パウロは10節で「勧めではなく命令」だと強い口調で語りながら「離婚してはならない」と説きました。クリスチャン同士の結婚は創造主が結んでくださったもの(マルコ10:6～9)と考える為、人間の都合で離婚してはならないとパウロは語ったのです。しかし、男女間には様々な出来事が起こり、離婚へと至ってしまうことがあります。当時のコリント教会でも同じような事が起こっていました。11節でパウロはそのような場合には「再婚しないでいるか、それとも、もう一度元の人と一緒にいるが良い」と指導しています。イエス様はマルコによる福音書で、結婚関係で妻がひどい扱いを受けていた事(現代のDVのような事)に言及され、妻を守る意味で離婚状を書くことを許された事を語られました。一方で、死別以外で、離婚し他の異性と一緒になるなら姦淫の罪を犯すことになるかと語られたからです。パウロは人間の考えを中心にして結婚生活を考える人本主義的(ヒューマニズム)な考えではなく、創造主がこの結婚をどう導かれるかという創造主を中心とした結婚生活を送る事の大切さを訴えたのです。離婚してしまったのなら、他に自分を満たしてくれる相手がいるのだろうかと一生

懸命探すよりは、離婚に至った原因を創造主が解決して下さり、再びヨリを戻す事ができるようにと創造主に祈らなければなりません。

アメリカでは半分近くの夫婦が離婚し、日本でも30%前後が離婚するという現実、コリント教会の時代とは異なる現象かもしれません。2018年、名古屋で開催された離婚者牧会セミナーで講師を勤めたエリック・カステンスキールド氏は『離婚から立ち直る 心の傷と痛みからの解放』という著書の中で離婚者は大なり小なり心の傷を受けており、また結婚生活で相手に満たされなかったという空虚感を持っているので、まずは創造主との関係に置いて傷が癒やされ、相手に満たされなかった愛の感情を創造主の愛で満たされる経験が必要だと語りました。これこそが、離婚者の回復へと繋がると語りました。まずは、創造主との関係を回復し、愛で満たしてからこそ新しいスタートが可能だと語りました。

### (3)夫婦の一方が未信者の夫婦の場合

続いて、12節ではパウロは夫婦のうち一方が未信者の場合の夫婦関係について述べています。当時のコリント教会ではクリスチャン側である者が未信者の伴侶との生活に、苦しみを覚えてしまい、もっと良い信仰生活を送りたいがために、未信者側に離婚を申し出る事例があったようです(そして、信者と結婚しようとする動きも!)

そのような動きを見たパウロは、未信者の相手が一緒に生活する事を望むならば、別れてはいけない(13節)と語りました。なぜならば、創造主は信者である一方を通して、この家庭を憐れみ、恵みを流し出そうとして下さるからです。そして夫婦の愛の印として与えられた子供に対して、創造主の良い影響を与える事ができるからです。未信者の夫婦間であっても、一方が創造主の恵みの流れ口として用いられている事を感謝しつつ生活すべきです。また、目の前の生活では忍耐や労苦が伴っても、相手が変わられ、クリスチャンになるという希望を最後まで捨ててはいけません。

しかし、未信者の伴侶が離れていく事を決断した場合には、離れるままにしないでと語っています。信者の伴侶からたくさんの恵みを受けているにも関わらず、創造主を否定して離れていくなれば、そのままにしておいても良いと語りました。これは結婚生活維持のために、信仰を捨てるように迫り、信仰を捨てなければ離婚するという脅迫がある場合についてのパウロの見解です。イエス様を否定することは信仰を否定する事になるからです。

## 3 分かち合ってみましょう

人生で最大の選択であり、創造主の最大の祝福である結婚ですが、男女・価値観の違う2人が結婚するわけですから、人間中心に考えると、人生最大の呪いのような生活にもなりかねない部分を持ち合わせています。

- 今まで、どのような離婚の危機があったでしょうか。どのように乗り越える事ができたでしょうか。
- もし離婚していた場合には、離婚で受けた傷や思いをどのように創造主に捧げたり、回復させて頂いたでしょうか。
- 夫婦の中で一方が未信者の夫婦では、どのような苦しみや忍耐があるでしょうか。また、未信者の相手に創造主がどのように働かれる事を期待して祈っていますか。